

# 奈良・平城京左京三条三坊三坪



(奈良)

柿経を中心とする大量の

遺構が失われていた。この旧河道は当時の佐保川の流路と思われる。

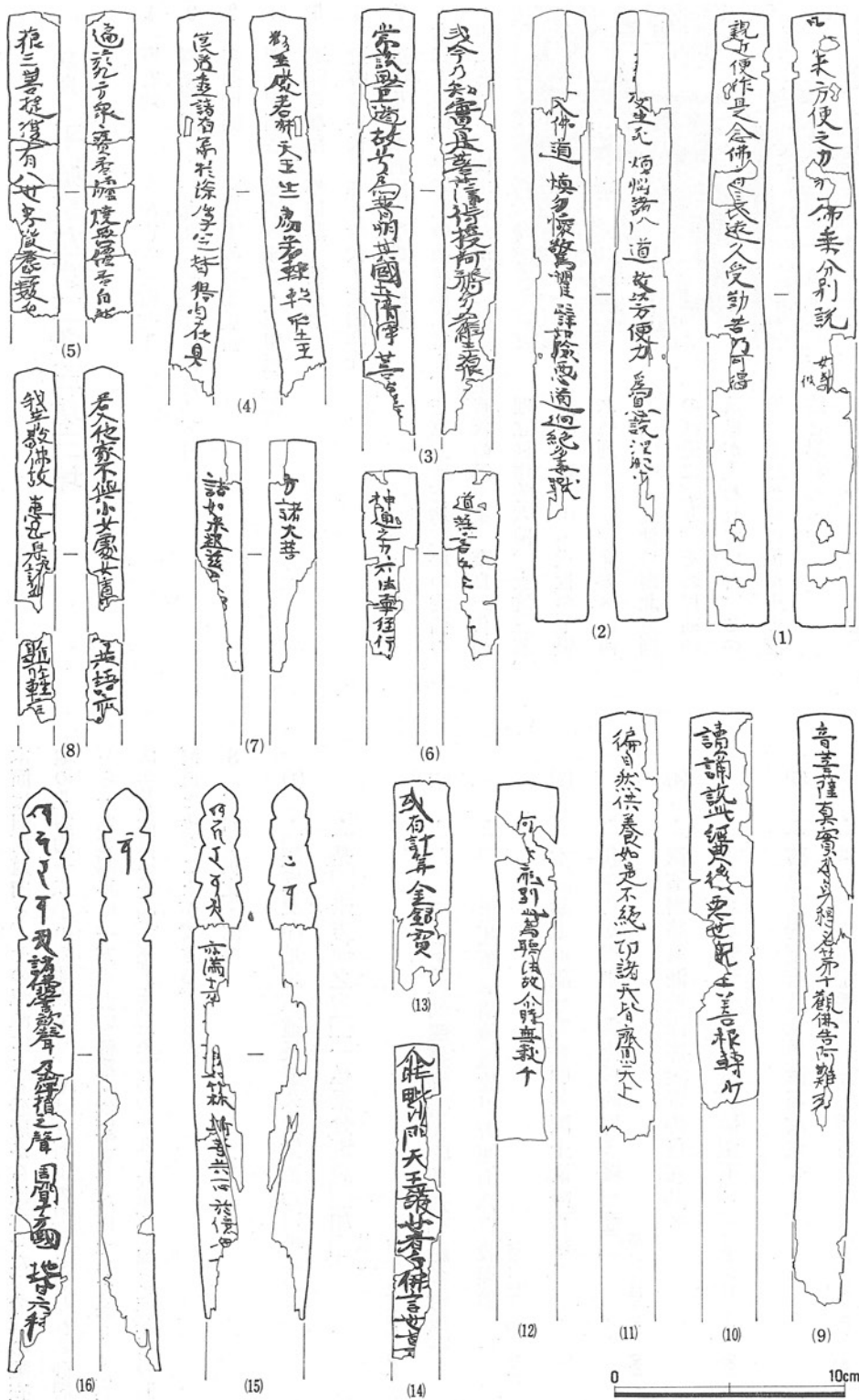
本調査地は、平城京の条坊復原では、左京三条三坊三坪の北西の一画にあたる。検出した遺構には、弥生時代の溝一条、奈良時代の掘立柱建物六棟、土坑三基、井戸一基、中・近世の土堤、木杭列がある。発掘区の西半は、中・近世の南北方向の河道により、それ以前の遺構が失われていた。この旧河道は当時の佐保川の流路と思われる。

- 1 所在地 奈良市大宮町七丁目
- 2 調査期間 一九九二年(平4)四月～五月
- 3 発掘機関 奈良市教育委員会
- 4 調査担当者 松浦五輪美・原田憲二郎
- 5 遺跡の種類 都城跡・河道跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～桃山時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

木簡は旧河道内と、その氾濫による砂層から出土した。今回の調査地の北西約一二〇mの地点でも、やはり河川の氾濫と思われる砂層から一九七四年に一万点近い柿経・笹塔婆等が出土しており(奈良国立文化財研究所『平城京左京三条三坊三坪』一九七五年)、同じ佐保川の旧河道とみることができる。

## 8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「親近便作是念仏道長遠久受勤苦乃可得」  
・「是□来方便之力□一仏乗分別説□如□  
彼」  
267×24×0.3 061
- (2) ・「□□入仏道慎勿懷驚懼譬如險惡道廻絶多毒獸」  
・「□□生死煩惱諸險道故以方便力為息設涅槃」  
264×24×0.3 061
- (3) ・「常説無上道故号为普明其国土清浄菩薩×」  
・「我今乃知实是菩薩得授阿耨多羅三藐□」  
(183)×22×0.3 061
- (4) ・「漢道書諸有漏於深禪定皆得自在具×」  
・「釈坐処若梵天王坐処若転輪聖王× (159)×23×0.3 061
- (5) ・「藐三菩提復有八世界微塵数衆×」  
・「遍於九方衆宝香爐焼無価香自然× (132)×21×0.3 061



- (6) 「神通之力若法華經行□  
・道經書□  
(88)×23×0.3 061
- (7) 「諸如来起慈□  
・方諸大菩□  
(102)×20×0.3 061
- (8) 「我等敬仏故悉忍是諸□…斯所輕言×  
・若入他家不與小女処女寡…□共語亦□  
(130)×16×0.5 061
- (9) 「音菩薩真実□身□名第十観仏告阿難□  
(256)×23×0.3 061
- (10) 「読誦説此經典後惡世□生善根転少×  
(170)×27×0.3 061
- (11) 「徧自然供養如是不絶一切諸天皆齋天上  
(186)×23×0.3 061
- (12) 「阿□□応到此為聴法故余時無數千  
(154)×26×0.3 061
- (13) 「或有計算金銀宝×  
(91)×25×0.3 061
- (14) 「余時毗沙門天王護世者白仏言世尊×  
(134)×19×0.7 061
- (15) 「阿耨多羅三藐三菩提亦滿十方□□□如竹林斯等共一心於=
- || 億□□
- (16) 「皆□  
・阿耨多羅三藐三菩提諸仏警効声及彈指之声周聞十方国地=
- (17) 「阿耨多羅三藐三菩提世尊欲重宣此義而説偈言」  
・「皆」  
(253)×23×0.3 061
- (18) 「阿耨多羅三藐三菩提心所行通達無□又於諸法究書明了示=
- || 諸」  
・「皆」  
(293)×24×0.3 061
- (19) 「阿耨多羅三藐三菩提名是經第二功德不思議力」  
・「皆」  
(294)×23×0.3 061
- (20) 「阿耨多羅三藐三菩提八十種妙好十八不共法如是等功德而=
- || 我皆已失」  
・「皆」  
(299)×19×0.3 061
- (21) 「阿耨多羅三藐三菩提又見□□無數恒沙嚴飾国界」  
・「皆」  
(298)×21×0.3 061

(22) □□□<sub>1</sub> 寶我眷□□淨仏国土不久得成無

・「<sub>2</sub>」 (239) × (18) × 0.3 061

(23) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷□□垢濁水莫染不受塵

・「<sub>2</sub>」 (227) × 24 × 0.3 061

(24) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷我等今頓乏□□此□退還導師作是念此

|| 輩甚可愍 三廿八 ||

・「<sub>2</sub>」 (293) × 24 × 0.3 061

(25) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷常說无上道故号为普明其国土清淨菩

|| 薩皆勇猛 ||

・「<sub>2</sub>」 (286) × 23 × 0.3 061

(26) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷如是无量事我今但略說

・「<sub>2</sub>」 (286) × 23 × 0.3 061

(27) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷入不為一切邪見生死之所壞敗是故善男

・「<sub>2</sub>」 (295) × 21 × 0.3 061

(28) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷得入无上道速成就仏身

・「<sub>2</sub>」 (296) × 25 × 0.3 061

(29) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷問其義趣是則為難若人說法令千万億

・「<sub>2</sub>」 (296) × 23 × 0.3 061

(30) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷由旬汝身第一端正百千万福光明殊妙

|| 是 ||

・「<sub>2</sub>」 (297) × 22 × 0.3 061

(31) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷汝是人以一切樂具施於四百万億阿僧祇

・「<sub>2</sub>」 (297) × 23 × 0.3 061

(32) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷不蒙仏所化常□□惡×

・「<sub>2</sub>」 (135) × 23 × 0.3 061

(33) ・「<sub>1</sub>」 × 寶我眷誦受持法華經■者說陀

・「<sub>2</sub>」 (109) × 24 × 0.3 061

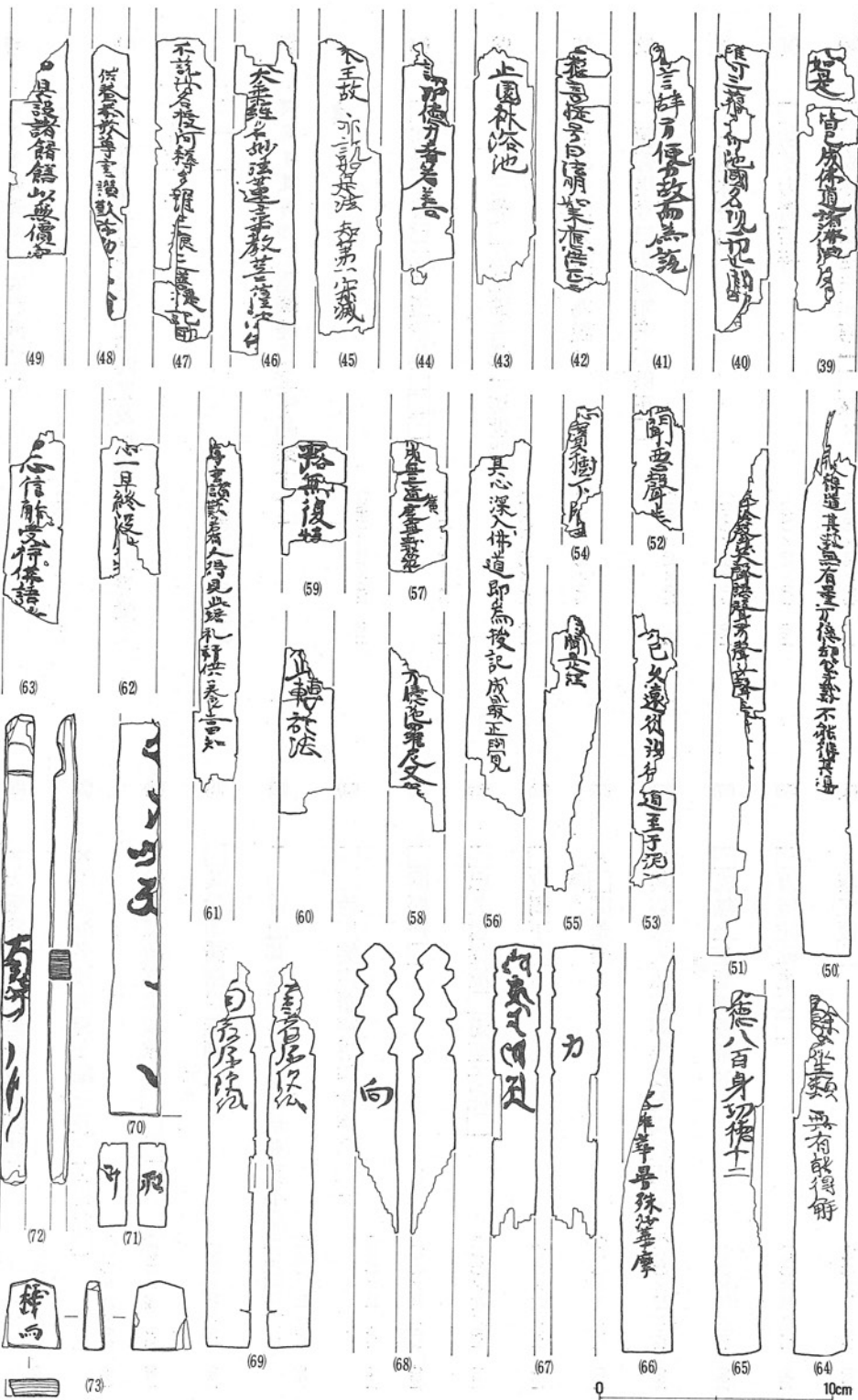
(34) ・「<sub>1</sub>」 × 寶我眷菩薩声聞大衆南西北方四維□□如

・「<sub>2</sub>」 (247) × 21 × 0.3 061

(35) ・「<sub>1</sub>」 寶我眷於無數却如恒河沙生輒

・「<sub>2</sub>」 (159) × 20 × 0.3 061

(36)	・ × 𐑖𐑦𐑦𐑦𐑦 無智者錯乱迷惑 ×	(120) × 25 × 0.3	061	(46)	× 大乘經名妙法蓮華教菩薩法 □	(143) × 26 × 0.3	081
	・ 𐑖			(47)	× 不說汝名授阿耨多羅三藐三菩提記 □	(131) × 25 × 0.3	081
(37)	・ 「𐑖𐑦𐑦𐑦𐑦𐑦 音菩薩愍諸四衆及於天龍人非人等受 〓			(48)	× 供養恭敬尊重讚歎弥 □ □ □ □	(120) × 16 × 0.7	081
	〓 其 〓						
	・ □ □ 〓	296 × 23 × 0.3	061	(49)	□ 具設諸餽饌以無価 □ × <sup>〔宝力〕</sup>	(92) × 25 × 0.3	081
(38)	・ 𐑖𐑦𐑦𐑦𐑦𐑦 妙法蓮華經見宝塔品第十一 〓			(50)	□ 〓 得道其数無有量万億劫算数不能得其辺 〓	(238) × 21 × 0.3	081
	・ 𐑖			(51)	□ 〓 鈴声笑声語声男声女声 □ □ 〓	(219) × 21 × 0.3	081
		(296) × 23 × 0.3	061	(52)	□ 〓 聞惡声 □	(54) × 22 × 0.3	081
(39)	□ 如是…皆已成仏道諸仏 □ □ □	(114) × 25 × 0.3	081	(53)	□ 〓 已久遠從汝 □ 道至子泥 □	(118) × 18 × 0.4	081
(40)	× 准呵三藐 □ 仏陀国名現一切世間劫 ×	(125) × 22 × 0.3	081	(54)	□ 〓 宝樹下 □	(56) × 17 × 0.4	081
(41)	× 言辞方便力故而為説 ×	(102) × 22 × 0.3	081	(55)	× <sup>〔得カ〕</sup> 〓 聞是經	(120) × 23 × 0.3	081
(42)	□ 藐菩提号曰法明如来応供正 □	(108) × 24 × 0.3	081	(56)	× 其心深入仏道即為授記成最正覺	(162) × 24 × 0.3	081
(43)	× 止園林浴池	(100) × 23 × 0.3	081	(57)	□ 〓 成無上道度無数衆 × <sup>廣</sup>	(58) × 25 × 0.3	081
(44)	□ 功德力者若善	(97) × 23 × 0.3	081	(58)	□ 〓 万億陀羅尼又 □	(80) × 23 × 0.3	081
(45)	□ 王故亦説如是法知第一 □ 滅 ×	(129) × 28 × 0.3	081	(59)	× 露無復 □	(44) × 27 × 0.3	081



(60)	□此転於法	(72)×23×0.3	081
(61)	×尊重讚歎若有人得見此塔礼拝供養当知	(154)×19×0.3	081
(62)	□一旦終□□	(60)×25×0.3	081
(63)	□心信解受持仏語□	(84)×24×0.3	081
(64)	□余衆生類無有能得解	(154)×22×0.3	081
(65)	□德八百身功德千二	(158)×21×0.3	081
(66)	□華曼殊沙華摩	(174)×23×0.3	081
(67)	・「 $\overline{\text{力}}$ 」	(127)×19×0.3	081
(68)	「向	(126)×18×0.3	081
(69)	・×南無阿弥陀仏	(156)×19×0.3	081
(70)	・×南無阿弥陀仏	(170)×(20)×5	019
(71)	・「ウ」		
	・「取」	37×13×1	011

(72) 「南無阿弥陀仏

(205)×13×10 065

(73) 「桂馬」

530×(25)×10 061

(1)～(66)は柿経、(67)～(69)は笹塔婆である。完形の柿経、笹塔婆は少なく、多くは細片であるが、約一万点が出土した。柿経は、檜や杉などの板を薄く剥いだ「こけら」あるいは「経木」と呼ばれる薄板に経文を書写したものである。今回出土した柿経は頭部形態と写経方法により、三種類に分類できる。各々の特徴を左に記す。

A—1類 頭部形態が山形で、表裏両面に経文を書写する。(1)～

(8)

A—2類 頭部形態が山形で、片面のみに経文を書写する。(9)～

(14)

B 類 頭部形態が五輪塔形で、地輪部を下方にのぼし、五輪

塔部表面に「 $\overline{\text{阿彌陀佛}}$ 」の五大種子と経文、裏面には金剛界大日如来をあらわす梵字「 $\overline{\text{𑖀𑖦𑖫𑖞𑖳𑖹}}$ 」あるいは莊嚴点つきの「 $\overline{\text{𑖀𑖦𑖫𑖞𑖳𑖹}}$ 」を記す。(15)～(33)

書写經典の大半は法華経であるが、そのほかに無量義経、観普賢経、般若心経、阿弥陀経を書写したものが少数出土している。法華経書写柿経のなかには、(3)と(28)のように、経文の同一行が書写されているのがみられることから、二束以上の柿経があったことがわかる。断簡の所屬を左に記す。

妙法蓮華經序品第一	(21)・(46)・(48)・(66)
妙法蓮華經方便品第二	(15)・(36)・(41)・(45)・(57)・(63)・
妙法蓮華經譬喻品第三	(64)
妙法蓮華經信解品第四	(20)・(35)
妙法蓮華經藥草喻品第五	(13)・(62)
妙法蓮華經化城喻品第七	(12)・(18)・(56)
妙法蓮華經五百弟子受記品第八	(1)・(2)・(24)・(32)・(50)・(60)
妙法蓮華經法師品第十	(3)・(25)・(26)・(42)・(49)
妙法蓮華經見宝塔品第十一	(61)
妙法蓮華經勸持品第十三	(29)・(38)
妙法蓮華經安樂行品第十四	(8)の表・(10)・(47)
妙法蓮華經如來壽量品第十六	(7)・(8)の裏
妙法蓮華經分別功德品第十七	(28)・(59)
妙法蓮華經隨喜功德品第十八	(5)・(43)・(54)・(55)
妙法蓮華經法師功德品第十九	(4)・(31)
妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十	(51)・(65)
妙法蓮華經如來神力品第二十一	(37)
妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四	(16)
妙法蓮華經陀羅尼品第二十六	(30)・(40)
妙法蓮華經普賢菩薩勸發品第二十八	(14)・(33)
	(6)

無量義經德行品第一	(23)
無量義經說法品第二	(27)・(58)
無量義經十功德品第三	(19)・(22)・(34)・(44)
仏説観普賢菩薩行法經	(52)
出典不明	(9)・(11)・(17)・(39)・(53)

柿經の書写は、限定された時間内で完了させなければならなかったもので、間違えて書写されている柿經も多い。今回出土した柿經でも、誤字(1)の裏の末字)、加字(1)の裏の「彼」、57の「廣」、抹消(3)が見られる。

今回出土した柿經は、両面写経のものと片面写経のものの両方があり、厚さは薄く、均一化していることなどから、柿經の年代は一五〜一六世紀後半であろう。

笹塔婆は、柿經と同じように、薄板に名号、題目、種字などを書写したものである。今回出土した笹塔婆は、頭部を山形にしたものと、五輪塔形のもの二種類に分類できるが、頭部を山形にし、「南無阿弥陀仏」の名号を記したものが大半である。

(70)は墨書札である。上部と右半分を欠損している。赤外線テレビカメラによる観察では「南無阿弥陀仏」の六字名号を、梵字で表記していることがわかる。(71)は聞香札もしくは鬘茶札である。表面の「ウ」は「客」の略字で、裏面の「取」は人名を略したものであろう。これまでの出土資料と比較すると、その形状から聞香札の可能性



性が高い。(72)は墨書木製品である。上部に挟りが入っており、何らかの部材を再利用していると考えられる。(73)は将棋の駒である。文字を彫り込んで墨を点じたものではなく、そのまま墨書している。裏面に文字は確認できない。

なお、柿経の經典の検索に際しては、元興寺文化財研究所の藤澤典彦氏、千手寺の木下密運氏、木簡の釈読・解釈に際しては、奈良国立文化財研究所史料調査室の方々のご教示を得た。

## 9 関係文献

奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成四年度』(一九九三年)

松浦五輪美・原田憲二郎「柿経の考察―分類と編年について―」

『奈良市埋蔵文化財調査センター紀要 一九九二』一九九三年

(原田憲二郎)

## 木簡研究 第九号

### 巻頭言

一九八六年出土の木簡

田中 稔

概要 平城宮・京跡 興福寺旧境内 藤原京跡 和田麿寺  
橋寺 曲川遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長  
岡京跡(4) 平安京右京三条二坊八町 平安京右京五条一坊三  
町 平安京右京五条一坊六町 平安京右京八条二坊二町 平  
安京右京八条二坊十二町 伏見城跡 大坂城跡 安堂遺跡  
津田トッパナ遺跡 萱振A遺跡 祢布ヶ森遺跡 但馬国府推  
定地 初田館跡 福田片岡遺跡 清洲城下町遺跡(1) 清洲城  
下町遺跡(2) 居倉遺跡 土橋遺跡 駿府城三の丸跡 東京大  
学構内遺跡 浜野川遺跡 神照寺坊遺跡 浄琳寺遺跡 光相  
寺遺跡 吉地薬師堂遺跡 胆沢城跡 根城跡 生石2遺跡  
新青渡遺跡 弘田柵跡 田名遺跡 曾万布遺跡 辻遺跡 富  
田川河床遺跡 草戸千軒町遺跡 周防国府跡 中島田遺跡  
大宰府跡 井相田C遺跡 吉野ヶ里遺跡  
一九七七年以前出土の木簡(九)  
平城宮跡(第三二次補足調査)  
国語の表記史と森ノ内遺跡木簡  
敦煌凌胡際址出土冊書の復原  
漆紙文書集成  
正倉院木簡の用途——原秀三郎氏の所説に接して——  
岸俊男会長の思い出  
彙報

頒価 三八〇〇円 千五〇〇円